

令和7年

第16回彦根市子ども議会会議録

11月
(11月16日)

彦 根 市 議 会

令和 7 年 1 月 1 日

彦根市子ども議会会議録総目次

11月16日（日）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名（4番 山田結華さん（城西小学校）、9番 服部匡紀さん（城東小学校）、12番 川瀬東吾さん（河瀬小学校）、17番 黒木颯人さん（稲枝北小学校）、19番 飯干 和さん（金城小学校）、20番 吉田琉空さん（平田小学校））	3
会期の決定	3
彦根市政について（一般質問）	3
1番 松澤大成さん（若葉小学校） 質問	4
少子高齢化の改善について	4
古川都市政策部長 答弁	4
2番 佐々木信理さん（鳥居本小学校） 質問	5
学習者用端末について	5
田島市長 答弁	5
3番 金子 蓮さん（城北小学校） 質問	6
彦根城の世界遺産登録に向けた環境整備について	6
關谷建設部長 答弁	6
4番 山田結華さん（城西小学校） 質問	7
彦根市内で年中使える自習室を提供してほしい	7
青木副市長 答弁	7
5番 速水紗良さん（高宮小学校） 質問	8
魅力的な彦根市にするために	8
山岸観光文化戦略部長 答弁	9
6番 馬場零音渚さん（旭森小学校） 質問	9
安全に暮らすための取組について	9

古川都市政策部長	答弁	10
7番 山口 凜さん（鳥居本小学校）	質問	10
佐和山トンネル付近の渋滞解消について		10
關谷建設部長	答弁	11
8番 比喜多優奈さん（城陽小学校）	質問	12
彦根市の小児科の医療の充実について		12
金子病院事業管理者	答弁	12
金子病院事業管理者	発言の訂正	14
9番 服部匡紀さん（城東小学校）	質問	15
学校のエレベーター設置について		15
小島教育部長	答弁	15
10番 門川咲優さん（城南小学校）	質問	16
トイレの清潔感を出すために		16
小島教育部長	答弁	16
11番 澤田 椰さん（亀山小学校）	質問	17
災害に強い、魅力ある彦根のまちづくりについて		17
田島市長	答弁	17
12番 川瀬東吾さん（河瀬小学校）	質問	18
彦根城を世界遺産にするために		18
山岸観光文化戦略部長	答弁	19
13番 西澤千悠さん（亀山小学校）	質問	20
彦根の南部に気軽に本が読める場所をつくってほしい		20
小島教育部長	答弁	20
14番 仲村春乃さん（稲枝西小学校）	質問	21
通学路の安全強化について		21
關谷建設部長	答弁	22
15番 山口響輝さん（城南小学校）	質問	23
彦根市内の全小中学校の更衣室の設置について		23
小島教育部長	答弁	23
16番 江畑 駿さん（城陽小学校）	質問	24
小学校での社会体験の機会を増やす		24
西嶋教育長	答弁	25
17番 黒木颯人さん（稲枝北小学校）	質問	26
稲枝北小学校の校門付近の改修について		26
小島教育部長	答弁	26
18番 河端梨乃さん（佐和山小学校）	質問	27

若者の投票率の向上について		27
野瀬選挙管理委員会委員長	答弁	27
19番 飯干 和さん（金城小学校）	質問	28
彦根市の熱中症対策について		28
西嶋教育長	答弁	29
20番 吉田琉空さん（平田小学校）	質問	30
子どもが悩みを気軽に相談できる環境づくりについて		30
西嶋教育長	答弁	30
21番 カミムラ パウロ ロベルトさん（稲枝東小学校）	質問	31
待機児童の増加に対して、彦根市がしている取組は		31
前川こども家庭部長	答弁	31
22番 高田柚菜さん（佐和山小学校）	質問	32
獣害対策について		32
稲野産業部長	答弁	32
23番 海外恵輔さん（金城小学校）	質問	33
琵琶湖のごみを減らすための取組について		33
田島市長	答弁	33
24番 大橋達樹さん（稲枝北小学校）	質問	34
スクールバスを導入してほしい		34
小島教育部長	答弁	35
閉会		36

令和 7 年 11 月 16 日

第16回彦根市子ども議会会議録

【 第 1 日 】

第16回彦根市子ども議会会議録

令和7年11月16日（日曜日）

議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について

会議に出席した議員（24名）

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1番 松澤大成さん（若葉小学校） | 13番 西澤千悠さん（亀山小学校） |
| 2番 佐々木信理さん（鳥居本小学校） | 14番 仲村春乃さん（稲枝西小学校） |
| 3番 金子蓮さん（城北小学校） | 15番 山口響輝さん（城南小学校） |
| 4番 山田結華さん（城西小学校） | 16番 江畑駿さん（城陽小学校） |
| 5番 速水紗良さん（高宮小学校） | 17番 黒木颯人さん（稲枝北小学校） |
| 6番 馬場零音渚さん（旭森小学校） | 18番 河端梨乃さん（佐和山小学校） |
| 7番 山口凛さん（鳥居本小学校） | 19番 飯干和さん（金城小学校） |
| 8番 比喜多優奈さん（城陽小学校） | 20番 吉田琉空さん（平田小学校） |
| 9番 服部匡紀さん（城東小学校） | 21番 カミラ パウロ ロベルトさん（稲枝東小学校） |
| 10番 門川咲優さん（城南小学校） | 22番 高田柚菜さん（佐和山小学校） |
| 11番 澤田 椰さん（亀山小学校） | 23番 海外恵輔さん（金城小学校） |
| 12番 川瀬東吾さん（河瀬小学校） | 24番 大橋達樹さん（稲枝北小学校） |

会議に欠席した議員（なし）

議場に出席した事務局職員

- 事務局長 大橋茂雄
- 議会課長 若林善樹
- 議会課長補佐 福田篤史
- 書記 前川智華子

会議に出席した説明員

市長	田島一成さん	副市長	青木洋さん
企画振興部長	疋田元伯さん	総務部長	牛澤淳さん
市民環境部長	綾木陽一さん	こども家庭部長	前川昌敏さん
観光文化戦略部長	山岸将郎さん	産業部長	稲野善行さん
建設部長	關谷真治さん	都市政策部長	古川雅之さん
病院事業管理者	金子隆昭さん	病院事務局長	馬場敬人さん
選挙管理委員会委員長	野瀬毅さん	教育長	西嶋良年さん
教育部長	小島久喜さん	企画振興部次長	種村慎洋さん

○議会事務局長（大橋茂雄さん） 皆様、おはようございます。

本日は、第16回子ども議会にお越しいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方には、あらかじめお願い申し上げます。子ども議会の取材のために、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。なお、保護者の皆様、傍聴者の皆様におかれましては、本会議中の撮影は傍聴席からのみとさせていただきますが、本会議終了後に撮影時間を設けさせていただきますので、傍聴席以外からの議場内での撮影は本会議終了後にお願いしたいと思います。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただきます。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

午前9時26分開会

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 最初に議長をします城陽小学校、江畑駿です。
よろしくお願いいたします。

ただいまから第16回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に4番山田結華さん、9番服部匡紀さん、12番川瀬東吾さん、17番黒木颯人さん、19番飯干和さん、20番吉田琉空さんを指名します。

日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日にしたいと思います。これにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 日程第3、彦根市政を議題とし、質問を行います。

24名の皆さんから質問が提出されています。3グループに分けて行います。まず、第1グループの順番は、1番松澤大成さん、2番佐々木信理さん、3番金子蓮さん、4番山田結華さん、5番速水紗良さん、6番馬場零音渚さん、7番山口凜さん、8番比喜多優奈さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1 番松澤大成さん。松澤さん。

〔1 番（松澤大成さん）登壇〕

○1 番（松澤大成さん） 「少子高齢化の改善について」

私は、少子高齢化改善のための住みやすいまちづくりについて提案します。

少子高齢化を改善するためには、若い世代を増やす必要があると考えます。そのためには、彦根市を今より住みやすいまちにして、市外の人に住んでもらえるようにすればいいと思います。

まずは、交通機関を便利にし、バスの本数や路線を増やし、タクシーのサブスクリプションを導入したら、車がない人も便利になると考えます。

また、彦根市の空き家数について調べたところ、令和5年に彦根市が出した彦根市空家等対策計画では、空き家率は3.2%となっています。そこで、空き家を活用し、家具を備え付けたり、市外からの移住者は家賃を安くするなどすれば移住者も増えると思います。

このような取組によって少子高齢化を少しでも改善できると思いますが、いかがでしょうか。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 都市政策部長。

○都市政策部長（古川雅之さん） 改めておはようございます。よろしく申し上げます。

それでは、松澤大成さんからの少子高齢化の改善についてお答えをします。

松澤さんをご提案されたバスの本数や路線を増やすこと、また、タクシーが定額料金で一定期間使い放題となるサブスクリプションを導入することなど、交通の利便性を高めることは、移動が非常に便利になり、若い世代の市民を増やすために必要なことだと思います。現在、自動車をお持ちの方が多く、バスやタクシーなど公共交通機関を利用される方が少ない状況となっています。それに加えて、最近では、バスやタクシーの運転手の不足も大きな課題となっています。

しかし、市民の皆さんが路線バスやタクシーをもっと多く利用していただくようになりますと、運賃収入も増え、路線バスやタクシーが活性化し、路線や本数を増やすことができたり、運転手になりたい人も増えるかもしれません。

次に、空き家を活用し移住者を増やすという取組も、非常によい視点であり、有効な取組であると思います。彦根市も、今後、空き家は増えると考えておきまして、その活用は今後さらに必要になると思います。

しかしながら、その課題としましては、空き家であっても持ち主がおられるということですので、空き家の活用は、その持ち主の考えによってする・しないが決まるということになります。このようなことから、彦根市といたしましては、空き家の持ち主が活用してみようと思ってもらえるよう、一部ではありますが、改修に必要な費用を補助する制度を設けています。このような補助制度を使っていただいで空き家を有効活用できれば、移住者を増やすことにもつながると思います。

彦根市も、少子高齢化の改善のために、路線バスやタクシーの利用者が増えるように、

また、空き家が活用されるように、今後も努力してまいりますので、松澤さんもこれからもいろいろな提案をしていただければありがたいです。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 松澤さん。

〔1番（松澤大成さん）登壇〕

○1番（松澤大成さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 2番佐々木信理さん。佐々木さん。

〔2番（佐々木信理さん）登壇〕

○2番（佐々木信理さん） 「学習者用端末について」

僕は、学習者用端末を今よりもっと薄くて軽いものにすることを提案します。

僕は、学習者用端末を持ち帰ってデジタルドリルをしたり、音読の録画をして提出したりするなど、毎日家で使っています。しかし、持ち帰るときに、ほかに荷物が多いときは、学習者用端末が少し重くて困っています。特に体の小さな1年生だと、持ち帰るのが大変だと思います。今よりもっと軽くなれば、学習者用端末を持ち帰る人がもっと増えると思います。もっと多くの方が家でも学校でも学習者用端末が使いやすいように、ぜひ薄くて軽いものにしてください。よろしくお願いします。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 市長。

○市長（田島一成さん） おはようございます。

佐々木信理さんからの「学習者用端末について」にお答えを申し上げます。

ご質問いただきました内容から、学習者用端末をおうちでたくさん活用していただいていることが分かり、大変うれしく思いました。

端末を薄く軽いものにしてほしいというお話ではございましたが、彦根市では来年の2月頃に新しい端末を皆さんにお配りする予定をしております。新しい端末を選ぶときは、できるだけ軽い端末にできないかと考えてまいりましたが、薄くて軽い端末は、持ち運びがしやすい反面、壊れやすいという欠点がございます。それを防ぐために、薄くて軽い端末は、現在、頑丈なケースに入れて使うことが求められ、厚くて、結果的には重くなってしまっております。

今回新しく選んだ端末は、今の端末と大きさはほとんど変わりませんが、軽さは少しだけ軽くなりました。今の端末と新しい端末とを比べると、バドミントンのラケット1本分ほど軽くなる見込みで、実際にその薄い端末にケースとキーボードをつけた場合は、iPadと比べてもノート1冊分ぐらい重くなるという数字が出ております。

彦根市がこの端末を選んでいる理由は、今の端末の故障が増えている中、これから先5年間は皆様に快適に端末を使っていただくためであります。かなり今までよりも頑丈になり、性能も上がり、皆さんの期待に応えられると思いますが、どうか大切に取り扱いいただくよう心がけ、今まで以上に活用してくださることを心から願います。

以上です。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 佐々木さん。

〔2番（佐々木信理さん）登壇〕

○2番（佐々木信理さん） これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 3番金子蓮さん。金子さん。

〔3番（金子 蓮さん）登壇〕

○3番（金子 蓮さん） 「彦根城の世界遺産登録に向けた環境整備について」

私は、彦根城の世界遺産登録に向けて環境整備をすることを提案します。

具体的には、彦根城の周辺にある市立図書館の駐車場整備に伴ってなくなってしまった桜の街路樹を復活させ、桜いっぱいの彦根市にはどうでしょうか。実際に彦根市の文化財課に話を聞きに行ったところ、昨年1年間で彦根城を訪れた63万人の観光客のうち約15万人が桜のシーズンに訪れています。これは年間の来場者数の4分の1を占めています。このことから、桜を増やすことは、彦根城を訪れる観光客の増加につながり、彦根城の世界遺産登録に向けて一歩前進するのではないのでしょうか。

また、一方で、観光客が増えるとごみが増えることにもつながります。京都や東京では観光客によるごみのポイ捨てなどが社会問題となっています。桜の街路樹の整備とともに、世界遺産登録に向けて美しい我が彦根のまちづくりをお願いいたします。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 金子蓮さんからの彦根城の世界遺産登録に向けた環境整備についてお答えします。

まず、世界遺産登録に向けた環境整備につきましては、彦根城の歴史的な価値を守りながら、景観や周辺環境を整えることが大変重要であると考えております。金子さんからご提案いただいた桜の街路樹の復活は、桜が多く多くの市民や観光客に親しまれていることから、桜いっぱいの彦根市というイメージを広げる、とても魅力的な取組だと思えます。

その一方で、桜を街路樹として整備するには幾つかの課題もあります。桜、ソメイヨシノですが、寿命がおおむね70年から80年程度とされ、全国的に老朽化による倒木や枝折れが問題となっています。また、桜は、枝を切ると腐りやすくなる性質があるため、伸びた枝が通行の妨げになる場合の管理が難しく、安全上の課題が大きいことから、街路樹にはあまり適していないと言われております。

彦根城の石垣沿いに植えられている多くの桜は、昭和の初めに植えられたもので、現在では80年を超える古い木が多くなっており、これまでに、台風や大雪などの影響を受けて倒れるなど、多くの桜が失われています。また、お城は、天守だけでなく、石垣など多くの部分からできていますので、お城を形づくる石垣は非常に大切なものです。こうしたことから、倒れた桜につきましては、根を取ると石垣を傷めるおそれがありますので、根を切らずに幹を切る対応をしており、その後の植え替えや新たな植付けについても、石垣を守るために行っていないのが実情です。

こうした課題はありますが、桜は観光客の呼び込みにも大きな役割を果たしており、ま

た、桜の咲き誇る彦根城を大切に守っていこうという市民の思いを育むことにもつながります。このため、残っている桜を守り生かすことや周りの公園などに植えることで、世界遺産登録に向けて取り組んでまいります。

また、観光客の増加に伴うごみの問題につきましても、美しいまちを守るためには、ごみを出さない工夫やマナーの向上が欠かせません。市としても、マナーの啓発や美化活動の推進など、環境づくりに引き続いて取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 金子さん。

〔3番（金子 蓮さん）登壇〕

○3番（金子 蓮さん） 質問させていただき、ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 4番山田結華さん。山田さん。

〔4番（山田結華さん）登壇〕

○4番（山田結華さん） 「彦根市内で年中使える自習室を提供してほしい」

私は、彦根市内で年中使える自習室を提供してほしいです。

理由は、家のリビングなどで勉強する多くの子どもが、きょうだい近くで遊んでいたりと集中しづらい環境にあり、近くに自習室があると学習しやすくなると思うからです。また、現在、自習室があるところでは、時間や曜日が限られていたり、人が少なく、安全面でも不安になったりすることがあるからです。

例えば、職員さんが日頃からいて、いろいろな人が集まりやすい場所にあたりする公民館や図書館を自習室として使えるようにしてほしいです。今は公民館が長期休暇の間のみ自習室として開放されています。しかし、年中開放されていれば、子どもが学習しやすく、子どもの成績アップにもつながります。もし図書館で自習ができれば、身近に本があるので、本の内容をまとめたり調べ学習をしたりすることも可能です。さらに、いろいろな人が集まるので、情報交換をしたり分からないところを教え合ったりとコミュニケーションの輪が広がります。

以上のことから、私は、彦根市内で年中使える自習室を提供してほしいです。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 副市長。

○副市長（青木 洋さん） 山田結華さんからの「彦根市内で年中使える自習室を提供してほしい」という提案についてお答えをいたします。

山田さんからの提案は、一人ひとりがどのような環境であっても、学びやコミュニケーションの機会を得る大切な提案だと思います。現在、彦根市では、ホームページなどで夏休みなどの長期休業期間に自習室として使える市の施設をお知らせしており、全部で12か所あります。

質問にあります市の公民館や図書館の施設は、それぞれ目的に沿って利用の仕方が決まっています。公民館では、地域の人々の集まりや学び、交流を目的とした活動でたくさん

の利用があり、年中使える自習室を設けることは難しい状況です。しかし、公民館では、地域のコミュニケーションや子どもとのつながりを大切にしていますので、近くの西地区公民館に「ちょっと勉強したいのですが、空いていますか」と山田さんから声をかけていただきますと、その日、部屋が使えるような場合は「いいですよ」と返事できる場合もあります。この提案は公民館にも伝えておきますので、ぜひ一度、近くの公民館職員に声をかけてみてください。

また、図書館については、勉強道具を持ち込んで自習をすると、スペースにも限りがあるため、図書館の本を使った調べ物をしたい人や読書をする人の席がなくなることもあります。また、おしゃべりをするとほかの人の迷惑にもなってしまいます。図書館の本を使って、静かに調べ学習や読書をするために席を使うことはできますので、ぜひ目的に沿って利用をしていただきたいと思います。

以上です。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 山田さん。

〔4番（山田結華さん）登壇〕

○4番（山田結華さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 5番速水紗良さん。速水さん。

〔5番（速水紗良さん）登壇〕

○5番（速水紗良さん） 「魅力的な彦根市にするために」

私は、彦根市に観光スポットを増やして、より楽しく、より魅力的にすることを提案します。

現在の彦根市の観光スポットは、彦根城や四番町スクエア、琵琶湖などが有名ですが、それ以外にまだ知られていない観光スポットがあると考えます。そこで、私は、新たに彦根市の人や観光客の人が楽しめる観光スポットを増やすことについて提案します。

一つ目は、大人も子どもも自然の中で思いっきり遊べる場所として、アスレチック施設を造ることです。湖の近くで体を動かしながら自然を感じられる場所は、健康的な遊び場にもなり、観光客の人が楽しめるスポットにもなると考えます。

さらに、アスレチック施設の近くに道の駅を造ることで、アスレチックで遊んだ後、道の駅に立ち寄ることができます。道の駅では、彦根市の特産物を置くことで、特産物のアピールや地産地消につながると考えました。このようにすれば、彦根市の経済も活性化します。

最後に、私の住んでいる高宮には歴史的な宿場町があります。現在の彦根市は、お祭りのときはよく盛り上がっていますが、ふだんは人氣が少なく寂しい感じがします。そこで、宿場町の歴史を学べる場所があると、観光客以外にも、地域の人たちも地元への愛着が深まると考えます。現在、高宮には高宮地域文化センターがありますが、観光客の人や地域の人も学びたくなるような内容を充実させるとよいと思います。

このようなことから、彦根市に観光スポットを増やして、さらに魅力的にすることを提案します。

- 第1グループ議長（江畑 駿さん） 観光文化戦略部長。
○観光文化戦略部長（山岸将郎さん） 速水紗良さんからの「魅力的な彦根市にするために」についてお答えをします。

現在、彦根市に来られる観光客は、多くの方が彦根城、夢京橋キャッスルロード、四番町スクエアの3か所を訪問しておられます。一つの場所にお客様が集中すると混雑してしまいますので、これら3か所以外の場所で観光スポットを増やすというご提案はとてもよいお考えだと思います。

ご提案いただきました、琵琶湖の近くで自然の中で体を動かすことのできる観光スポットとしてのアスレチック施設を、アスレチック利用者を引き込むような地元の特産物を販売して地産地消につながる道の駅を、それぞれ新たに造るというご提案は、観光客を呼び込み、地域経済を発展させるという点で、とてもすばらしい考えだと思います。ただし、ご提案の施設を整備するには多額の費用がかかりますので、市としては慎重に検討してまいりたいと思います。

また、高宮町や鳥居本町にはかつて宿場町があり、歴史と文化が息づく地域です。鳥居本町にある鳥居本宿交流館さんあかでは、宿場町の歴史を紹介するパネル展示を行っておりますので、高宮地域文化センターにおいても、宿場町の歴史を学べる場所の提供や展示内容について、さらに充実していければと考えております。

- 第1グループ議長（江畑 駿さん） 速水さん。

〔5番（速水紗良さん）登壇〕

- 5番（速水紗良さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

- 第1グループ議長（江畑 駿さん） 6番馬場零音渚さん。馬場さん。

〔6番（馬場零音渚さん）登壇〕

- 6番（馬場零音渚さん） 「安全に暮らすための取組について」

私は、交通事故を減らし、安全に過ごすための取組について質問します。

私の住んでいる地域は、交通量が多く、交通事故の危険を感じるがよくあります。小さい子どもや高齢者が事故に巻き込まれないかが心配です。

そこで、二つ質問します。

一つ目の質問です。彦根市では、子どもや高齢者が安心して道路を利用できるように、どのような取組をしていますか。

また、私は信号無視をした車が通って怖い思いをしたことがあります。そこで、二つ目の質問です。信号無視をしたり、車が速度を落としたりできる対策はされていますか。私は、信号を低くしたり大きくしたりすることがよいと思います。また、標識や看板を増やすことで、運転者への注意を促し、事故が減ると思います。

私は、子どもたちや高齢者が安全に過ごせるように、以上二つの質問をします。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 都市政策部長。

○都市政策部長（古川雅之さん） 馬場零音渚さんからの安全に暮らすための取組についてお答えします。

馬場さんをご質問されたように、交通安全の取組は、子どもや高齢者に限らず皆さんの生活の安心・安全につながる大切なもので、彦根市でもそのために様々な取組を行っています。

まず、一つ目の質問のうち、子どもに関する取組については、小学校、中学校の通学路や、幼稚園、保育園の園児が通る道を対象に、危険な箇所の点検をし、危険な箇所を発見すると、転落防止の柵などを整備しています。また、歩道のない通学路などに緑色のカラー舗装をして歩行者の安全を図っています。

次に、高齢者に向けての取組としては、滋賀県の組織であります警察と彦根市が共同して、歩行や自転車で移動する際の交通安全についての講座を開催しています。

このほかにも、全ての皆さんが安心して道路を利用できるように、警察などとも相談して、カーブミラーやガードレールなどを設置し、危険な交差点などには、運転者に注意を促すために、路面に黄色や赤茶色の標示などを行っています。

続いて、二つ目の質問です。

信号機は、彦根市では設置することはできませんが、警察によって設置されるものがございます。また、高さや大きさについてはルールがあり、そのルールの中で、運転者にできるだけ早く信号機を認識してもらえよう設置されています。彦根市としましては、信号機に対しての地域からの要望や改善点を警察に伝えたり、車に速度を落としてもらえようように、飛び出し注意看板の配布や交差点の位置が分かる標識を設置しています。

本日の馬場さんのご質問によって、改めて皆さんも交通安全の大切さを感じていただいたと思います。彦根市としても、今後も交通安全の取組を進めますので、馬場さんも、交通安全の輪が広がるよう、ご協力をお願いします。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 馬場さん。

〔6番（馬場零音渚さん）登壇〕

○6番（馬場零音渚さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 7番山口凛さん。山口さん。

〔7番（山口 凛さん）登壇〕

○7番（山口 凛さん） 「佐和山トンネル付近の渋滞解消について」

僕は、佐和山トンネル付近の渋滞を解消することを提案します。

僕は、歯医者に行くときや学校に行くときに、インター前の交差点から外町交差点、佐和山トンネルにかけての渋滞に困っています。新しいトンネルと道ができたけど、逆に複雑になって、道に迷い、混んでしまっていると思います。なので、案内標識を作って新し

い道に誘導するのがいいと思います。さらに、朝や夕方の混雑している時間帯には警備員さんに誘導してもらいたいと思います。

渋滞が解消されることによって、通る人も気持ちよく通れるだろうし、交通事故も減ると思います。毎日安心して通れるように、ぜひ対策をよろしくお願いします。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 山口凛さんからの佐和山トンネル付近の渋滞解消についてお答えします。

渋滞が起こっている理由と、今どうなっているかを、とてもよく理解してくれていることが伝わりました。

これまで、彦根インターから彦根城の方へ行くには、混みやすい外町交差点を通るしかありませんでした。このせいで、いつも車がのろのろと動く慢性的な渋滞が起こり、皆さんの生活だけでなく、観光に来た人や荷物を運ぶ車も困ることがありました。

このことから、昨年12月に、滋賀県により彦根お城トンネルを含めた新しいバイパス道路を造っていただきました。この道路ができたおかげで、車が分かれて通ることができ、特に困っていた外町交差点の渋滞も減っています。

さらに、国により、国道8号バイパスを佐和山町まで新しく延ばしていただきました。新しい道路で長浜市と彦根市が繋がったことで、市にとってもよいことも増えましたが、その結果、国道8号を使う車が増え、山口さんのご指摘のとおり、朝や夕方の混む時間帯には、佐和山トンネル付近や古沢町交差点が新たに混雑する状況となっています。

こうした混雑を完全に解消するには、国道8号バイパスを近江八幡市までつなげることが一番ですが、これにはとても長い時間がかかってしまいます。このことから、今できる対策として、山口さんからご提案いただいた、初めて通る人にも分かりやすい案内がとても大切だと私たちも思っています。

今は、大きな看板で行き先を示したり、アスファルトの道に直接文字を書いたり色をつけるなど、車を誘導する工夫をしております。しかし、新しい道路が車の地図に反映されるまでに時間がかかることもあり、案内が十分でないところがある状況となっています。市としましては、こうした状況を国や県にも伝えて、状況を確認してもらい、渋滞時間に警備員さんの誘導の必要がないよう対策をお願いしていきたいと考えています。

以上です。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 山口さん。

〔7番（山口 凛さん）登壇〕

○7番（山口 凛さん） 再質問します。

佐和山トンネルよりも鳥居本町側のところに先ほども建設部長が言った米原バイパスができましたが、そこに信号ができてしまったせいでさらに混んでいると思います。そこについてはどう考えているのでしょうか。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 米原バイパスが新しく佐和山町交差点というところにつながることにつきましては、以前から彦根市としましても渋滞するのではないかという懸念を抱いていました。直接国道を造っているのは国になるんですけども、今後、国にも、一番解決できるのは先の近江八幡市までの道路をつないでいくことにはなりますが、現状を見ていただいて、混雑に対する対策をやっていただけるように警察と国の方にも頼んでいきたいと思っておりますので、現状、しばらく様子を見ながら、少しでも解決できるように彦根市としても努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 山口さん。

〔7番（山口 凜さん）登壇〕

○7番（山口 凜さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 8番比喜多優奈さん。比喜多さん。

〔8番（比喜多優奈さん）登壇〕

○8番（比喜多優奈さん） 「彦根市の小児科の医療の充実について」

私は、彦根市立病院の小児科のドクターの数を増やして彦根市の医療を充実させることを提案します。

理由は、彦根市立病院の小児科の患者の受入れが24時間365日体制ではないからです。私はこんな話を聞いたことがあります。子どもが夜間に熱を出して、受診しようと思ったけれども、近くの彦根市立病院では受け入れてもらえず、遠くの長浜市の病院に行ったという話です。この話を聞いて、熱が出ているのに遠い病院に行くと、向かう途中でさらに症状が悪化してしまうのではないかと心配になりました。

今の彦根市の現状は、令和5年4月1日までは救急外来で受け入れていたそうですが、ドクターの負担を避けるために、日曜日、祝日の夜間は彦根市が、それ以外は長浜市内の病院が対応しています。彦根市から長浜市までは遠く感じますが、長い目で見ると、彦根市も長浜市も対応の維持が必要なので、分担して10年後も20年後も続く医療体制にしています。しかし、近くの病院が受け入れてくれなかったら不安だし、家族も不安に思います。だからこそ、彦根市立病院の小児救急が24時間体制になると、子どもたちやお父さん、お母さんも安心できます。

これらのことから、子どもたちが日頃から安心して過ごせるように、彦根市立病院の小児科のドクターの数を増やして彦根市の医療を充実させることを提案します。子どもたちの命を守るために、ぜひよろしくをお願いします。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（金子隆昭さん） 比喜多優奈さんからの小児科の医療の充実についてお答えします。

比喜多さんが、自分より小さな子どもたちのことを思いやり、地域の医療をよくしたい

と考えてくれていることを、とても心強く、うれしく思います。病院の職員にとっても大きな励みになります。

彦根市立病院の小児科では、以前は24時間365日の体制で救急患者さんを受け入れていましたが、令和5年4月からは、火曜日と木曜日以外の平日の夜8時以降、土曜日の午後1時以降は、長浜赤十字病院などに救急対応をお願いしています。これは、医師の健康を守り、無理のない勤務体制を保つための取組です。

現在、小児科には3人の正規職員の医師が在籍し、日中の診療のほか、当番を組んで夜間や土曜日の午前中の救急にも対応しています。医師の健康を守っていくためにも、これ以上の過度な負担はかけられないと考え、大学病院などからも応援の医師に来ていただき、診療体制を何とか維持しているところです。

市民の皆さんから、24時間体制にしてほしいという声をいただくこともあり、そのお気持ちを受け止めたいと考える一方で、全国的に小児科医が不足しており、新たな医師を確保することは非常に難しい状況です。

子どもたちの命と健康を守るために、引き続き小児科医の確保に努めるとともに、他の病院やクリニックと協力しながら、地域全体で安定した小児医療を支えていきたいと考えています。

比喜多さんには、これからも地域の医療に関心を持ち、まちをよりよくするために、ぜひたくさんのお意見や考えを持ち続けていただきたいと思います。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 比喜多さん。

〔8番（比喜多優奈さん）登壇〕

○8番（比喜多優奈さん） 再質問します。

一日でも早く24時間365日体制にしてほしいのですが、具体的にドクターの確保のめどはいつ頃でしょうか。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（金子隆昭さん） 今ほど述べましたけれども、小児科のドクターというのは、やはり全国的に見ても不足している状況なんです。病院のお医者さんというのは、大学病院医学部の小児科の教室をお願いして先生を送っていただくという体制がほとんどです。彦根市立病院も、京都大学を中心にして、小児科の方に、時々年に2回ほど、小児科の先生にドクターを派遣してくださいというお願いに上がっているところです。しかしながら、ドクターを派遣する大学そのものがお医者さんが少ない、しかも、いろんな病院にお医者さんを派遣しなければいけないということで、なかなかそのめどが立たないというのが現状であります。ただ、来年の6月以降、短い周期で先生を送って何とか診療を維持していただくということは決められておりますので、そういう面では少しは医師の確保ができていないかなと考えています。

○第1グループ議長（江畑 駿さん） 比喜多さん。

〔8番（比喜多優奈さん）登壇〕

○8番（比喜多優奈さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（江畑 駿さん） しばらくの間、休憩とします。

○議会事務局長（大橋茂雄さん） 休憩時間は10分程度といたします。

午前10時08分休憩

午前10時18分再開

○議会事務局長（大橋茂雄さん） 改めまして、子ども議会にお越しいただきまして、皆様、ありがとうございます。

ご来場の皆様方には、あらかじめお願いを申し上げます。子ども議会の取材のために議場内に報道機関が入って撮影をされておりますので、ご了承いただきたいと思っております。なお、保護者の皆様、傍聴者の皆様におかれましては、本会議中の撮影は傍聴席からのみとさせていただきますが、本会議終了後に撮影時間を設けさせていただきますので、傍聴席以外からの議場内での撮影は本会議終了後によりしくお願いいたします。

また、議場内では飲食を禁止とさせていただいております。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

それでは、先ほど第1グループでご答弁いたしました執行部側から追加の答弁をさせていただくということでございますので、病院事業管理者、よろしくお願い申し上げます。

○病院事業管理者（金子隆昭さん） 先ほど比喜多さんから再質問をいただきまして、そこで数字が間違っていましたので、訂正させていただくとともに追加の答弁をさせていただきます。

来年6月からと申し上げましたけれども、正確には5月の連休明けからということになります。

追加の答弁でございますけれども、比喜多さんのように地域医療に関心を持っていただいている小学生がいるということは大変心強く思っております。本当にありがとうございます。

彦根市立病院は、小児科の先生だけではなくて、あらゆる科の先生が不足しています。彦根市立病院で不足しているということは、彦根市の地域でお医者さんが不足しているということになるわけです。ぜひとも本日参加していただいている子ども議員の皆様方には、将来、お医者さんになることを目指して、この地域で病気の患者さんのために働きたい、そういう高い志を持っていただいて、彦根市立病院で勤務していただきたいと、このように考えています。将来のことになりますけれども、ぜひよろしくお願い申し上げます。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 議長を交代しました。稲枝北小学校、大橋達樹です。よろしくお願い致します。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、9番服部匡紀さん、10番門川咲優さん、11番澤田椰さん、12番

川瀬東吾さん、13番西澤千悠さん、14番仲村春乃さん、15番山口響輝さん、16番江畑駿さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

9番服部匡紀さん。服部さん。

〔9番（服部匡紀さん）登壇〕

○9番（服部匡紀さん） 「学校のエレベーター設置について」

私は、学校にエレベーターをつけることを提案します。

理由は二つあります。

一つ目の理由は、私の学校の音楽室が3階にあり、音楽会で使う楽器を音楽室から体育館に運ぶとき、階段を使っています。そのときに、木琴やオルガンなどの重い楽器を大人数で持ち上げて運ぶのは危険だし、楽器を落として壊れてしまう可能性もあります。エレベーターが設置されると安全に効率よく運ぶことができます。早く運べた分、練習時間を長く取ることができます。

二つ目の理由は、足をけがした人や体が不自由な人が使うためです。実際に足をけがしていた友達は、先生やおうちの人の力を借りて階段を上り下りしていました。でも、移動教室のときには授業に遅れてしまうし、けがをする可能性もあり、不安な気持ちを抱かせてしまいます。エレベーターが設置されると、素早く安全に移動することができます。

エレベーターをつけることで、みんなが快適な学校生活を送れると思います。だから、私はエレベーターの設置を提案します。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 服部匡紀さんからの「学校のエレベーター設置について」にお答えします。

よりよい学校生活のためにご提案いただき、ありがとうございます。

ご提案いただいたように学校にエレベーターを設置すると、安全に重いものを運ぶことができ、また、体の不自由な人が安全に移動できるなど、安心して学校生活を送ることができます。

しかしながら、学校に新たにエレベーターを設置するためには、校舎の壁の解体や改修工事が必要となり、とても多くの費用がかかります。そのため、今すぐに設置することはできませんが、学校全体を改修する大規模な工事に合わせて、今後、計画的にエレベーターの導入を考えていきます。

なお、現在、体にハンディキャップを持った児童・生徒さんが入学された場合は、車椅子タイプの電動式階段昇降車を使用させていただくようにしているところでございます。

学校において、障害等の有無にかかわらず、誰もが支障なく安全・安心に学校生活を送ることができるよう、今後も環境を整備していきたいと考えております。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 服部さん。

〔9番（服部匡紀さん）登壇〕

○9番（服部匡紀さん） 再質問します。

僕なりにエレベーターの設置状況を調べてみたんですが、全国的には、小・中学校校舎のうち29%にエレベーターが設置されているにとどまっていますが、滋賀県では、令和3年度の調査で、公立小・中学校314校中194校に設置されており、その普及率は61.8%と全国平均を上回る水準です。一方、彦根市の公立小学校17校では、現在、平田小学校1校のみがエレベーターを備えており、設置率は極めて低い状況です。先ほど、計画していくとおっしゃっていましたが、国からの補助制度もあるみたいなので、それを上手に活用しながら早急に対応していただけることを望みます。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 現在、彦根市の小・中学校でエレベーターを設置しているのは6校ございます。設置率で申しますと、およそ4校に1校、25%の設置率になっています。今後につきましては、先ほども申しましたけれども、多額の費用、一つ造るのに数千万円の設置費用がかかりますので、そうした設置のためのお金が用意できましたら適切に順次つけていきたいと考えております。ご理解をよろしくお願いいたします。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 服部さん。

〔9番（服部匡紀さん）登壇〕

○9番（服部匡紀さん） ありがとうございます。

これにて私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 10番門川咲優さん。門川さん。

〔10番（門川咲優さん）登壇〕

○10番（門川咲優さん） 「トイレの清潔感を出すために」

臭い、汚い、行きたくない、こんなトイレをなくそうという提案を私します。

今、学校のトイレは悪臭が漂い、印象がとても悪いです。教室まで臭いが来て授業に悪影響が出たときもありました。毎日頑張ってトイレ掃除をしていますが、臭いは消えません。友達と臭いの対策をしてみました、臭いは収まらず、不快な思いで生活しています。中にはトイレを我慢しようとする人もいて心配です。

そこで、私は、トイレ全てを新しくすることは難しくても、トイレの臭いや清潔さについて対策をしてはどうかということを提案します。臭いがよくなることや清潔感が増すことによって、トイレに行きたくない人が減り、健康を守ることにもつながります。また、水道に手を洗いに行くことへの嫌な気持ちが減り、感染症を予防することにもつながります。

トイレの清潔感が増すことによって、心身の健康を守ることにつながるはずですが、だから、私は、トイレがきれいで臭いのない清潔感のある場所だと誰もが思えるようにすることを提案します。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 門川咲優さんからの「トイレの清潔感を出すために」についてお答えします。

まず、毎日トイレをきれいに掃除していただいている皆さんに心から感謝します。皆さんの努力や工夫のおかげで学校の環境が気持ちよく保たれています。

学校のトイレについては、門川さんのご意見にあったように、清潔に保つことは、皆さんの心身の健康を守るためにも重要なことだと考えています。

このため、現在、学校のトイレの便器を和式から洋式にしたり、古くなり臭いがするトイレの壁や床を改修する工事に取り組んでいるところでございます。しかしながら、改修するためには、多くの費用が必要となるため、これまでから毎年数校ずつ改修を進めてきており、今後も計画的に改修を行う予定をしています。

これからも学校や皆さんと力を合わせて、気持ちよく安心して使える学校の環境づくりを進めていきたいと考えています。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 門川さん。

〔10番（門川咲優さん）登壇〕

○10番（門川咲優さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 11番澤田 椰さん。澤田さん。

〔11番（澤田 椰さん）登壇〕

○11番（澤田 椰さん） 「災害に強い、魅力ある彦根のまちづくりについて」

私は、災害に強い、魅力ある彦根のまちづくりを提案いたします。

私は、災害に対する各施設の設備を強化し、彦根をより魅力あるまちにすることを提案します。

今、彦根市は、彦根城の世界遺産登録に向け、様々な政策を行っていますが、私が身の回りを見る限り、世界遺産登録に対して否定的な意見も見られました。その中で、特に私は「南海トラフ地震も近いし、彦根城も崩れてしまうのでは」という意見に目をつけました。確かに過去の熊本地震で熊本城は一部損壊してしまいました。実際、彦根城の世界遺産登録には、観光客の協力だけでなく、市民の協力も必要になってくるので、安全についての政策も、もっと進めていくべきだと思います。

これを通して私が伝えたいことは、何事も基本からということです。みんなが安心して暮らせることを前提に、彦根に新たな魅力を足して世界へ広めることが世界遺産登録へつながると思います。

以上のことから、私は、災害に強い魅力あふれる彦根のまちづくりを提案いたします。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 市長。

○市長（田島一成さん） 澤田 椰さんからの「災害に強い、魅力ある彦根のまちづくりについて」、お答えをいたします。

澤田さんは、熊本城の地震被害をはじめ、お城の災害対策について特に関心をお持ちと理解をいたしました。現在、彦根城でどのような対策を進めているのかについてお答えをしたいと思います。

彦根城は、皆さんもご存じのように、国宝の天守のほかに、太鼓門櫓、西の丸三重櫓、そして天秤櫓など、国から大切な文化財として指定をされ、建物や石垣がたくさん残っています。これらの大切な文化財を災害から守るため、令和6年度に地震に備えた天守の工事を終えたところですが、ほかの建物も順番に地震対策をしていかなければならないと考えています。

また、地震のほかに火災対策も重要です。令和元年には、世界遺産でありました沖縄県の首里城跡の建物が火災で大きな被害に見舞われました。彦根城も決して人ごとではありません。火災に備える工事を計画的にこれからも進めていきたいと思っています。

一度に全ての工事ができればいいのですが、一気にたくさんのお金が必要となってしまいますので、少しずつではありますが、安全に対する工事を着実に進めていくところがございます。

彦根城は、400年以上にわたって受け継がれてきた彦根市民みんなの宝です。これからも、災害対策を行うことにより、澤田さんをはじめ、皆さんの世代やこの先の世代の皆さんにまでしっかりと残し、新たな魅力を加えながら、ここ彦根に生まれてよかったな、これからも彦根に住み続けたいなと思ってもらえるような魅力づくりに取り組んでいきたいと思っています。

以上です。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 澤田さん。

〔11番（澤田 椰さん）登壇〕

○11番（澤田 椰さん） 再質問をします。

地盤強化など、その辺りの耐震強化についてはどれぐらいのお金がかかるのでしょうか。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 市長。

○市長（田島一成さん） 現在あります彦根城は、実は大きな岩盤の上に建っているものでございますので、ご心配いただく地盤強化でありますとか地震対策については、一定、熊本城のような大きな被害には見舞われないと想像いたします。しかしながら、どのような震災や災害が起こってくるかは分かりませんので、あらゆる災害に備えることができるよう、専門機関とも協議をしながら、その対策を順次進めることにしたいと思っています。

以上です。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 澤田さん。

〔11番（澤田 椰さん）登壇〕

○11番（澤田 椰さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 12番川瀬東吾さん。川瀬さん。

〔12番（川瀬東吾さん）登壇〕

○12番（川瀬東吾さん） 「彦根城を世界遺産にするために」

僕は、彦根城の天守閣が堂々と建っているところに魅力を感じます。そんな彦根城を世

界遺産にするために提案します。

世界遺産にするためには、外国人観光客にたくさん来てもらって、彦根城のすごさや魅力を知ってもらう必要があると思います。観光交流課に行って聞いてみると、彦根城の近くにはたくさんホテルがあるけれども、桜のシーズンやイベントのとき以外はいっぱいではないことが分かりました。僕は、1年を通してホテルがいっぱいになるくらい観光客に来てもらう必要があると思います。

そこで、僕が提案するのは、京都や大阪や奈良などに来ている外国人観光客が彦根に宿泊するように、彦根城のポスターを貼ってアピールするとよいのではないかとということです。また、観光客が彦根城の中に入るときに、着物を実際に来てもらって観光してもらうサービスもあったら喜ばれると思います。いかがでしょうか。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 観光文化戦略部長。

○観光文化戦略部長（山岸将郎さん） 川瀬東吾さんからの「彦根城を世界遺産にするために」についてお答えします。

ご指摘いただきましたとおり、外国人観光客にたくさん来ていただき、彦根城のすばらしさや彦根市の魅力を知ってもらうことは、彦根城の世界遺産登録につながる有効な手段だと考えます。そのため、現在、彦根市では、XやFacebook、Instagramなどを使って、英語や中国語などで本市の情報や彦根城の魅力を紹介しています。

ご提案いただきました彦根城のポスターを京都や大阪等の観光都市に貼ることについては、外国人観光客に直接目に映るアピール手段として、着眼点がすばらしく、とても有効だと思います。多くの人に見てもらえる場所として、まず空港やJRなどの駅があり、本市では、名古屋や東京の駅で壁や柱に画像を映し出すデジタルサイネージという電子表示機器を活用してアピールはしておりますが、ご提案いただきましたポスターについても、さらにたくさんの方に彦根に来てもらえるように、空港や駅に限らず、公共施設やショッピングモール等に掲示できないか、今後検討してまいりたいと思います。

また、彦根に来ていただいた外国人観光客に着物を着てもらおうという観光サービスにつきまして、市としては実施しておりませんが、民間事業者でかぶとやよろいを着てもらえる体験など実施しているところもあり、外国人観光客に知ってもらえる手法、喜んでもらえるサービスとして、大事な視点であると考えています。つきましては、市が直接実施できないか等の検討、さらに多くの民間事業者に着物観光を取り入れてもらえないか、事業啓発等に努めてまいりたいと考えています。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 川瀬さん。

〔12番（川瀬東吾さん）登壇〕

○12番（川瀬東吾さん） 再質問をします。

僕は、彦根城が2027年の世界遺産登録に必要な国の推薦が見送られたということを見たり聞いたりして、とてもびっくりしました。2028年に国に推薦してもらうために何か考えていることはありますか。

- 第2グループ議長（大橋達樹さん） 観光文化戦略部長。
- 観光文化戦略部長（山岸将郎さん） 今、川瀬さんからご指摘いただきました世界遺産登録の推薦見送りについて、大変残念なことではあったんですけども、それを機に、県と市とで再度、どのようにしていったらいいか今検討しております。今年度中に何とか国に推薦書を出していただけるように、それから、国もかなり協力的な体制は取っていただいているので、ご心配いただいているかと思えますけれども、国・県・市の3者が協力して世界遺産になるように頑張っていきたいと思えます。

- 第2グループ議長（大橋達樹さん） 川瀬さん。

〔12番（川瀬東吾さん）登壇〕

- 12番（川瀬東吾さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

- 第2グループ議長（大橋達樹さん） 13番西澤千悠さん。西澤さん。

〔13番（西澤千悠さん）登壇〕

- 13番（西澤千悠さん） 「彦根の南部に気軽に本が読める場所をつくってほしい」

私は、市内全員の人が気軽に本に親しめる環境づくりを提案します。

私は読書が好きなので、市立図書館でたくさん本を借りますが、私の通う亀山小学校からは遠く、行くのに車で片道30分程度かかります。また、車で行くため、親と予定を合わせる必要があり、私が新しい本を読みたいときに借りに行けないときがたまにあります。

そのため、自転車で気軽に本が借りられるように、休日に学校の図書室を開けたり、移動図書館たちばな号に休日や放課後の時間帯など学生の人たちも行ける時間に来たりしてほしいです。こうすることで、小さい子やお年寄りだけでなく、学生の人たちも本に親しむことができるのではないかと思います。

これらの理由から、彦根市の南部に住む人も気軽に本に親しめる環境づくりを提案します。

- 第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育部長。

- 教育部長（小島久喜さん） 西澤千悠さんからの「彦根の南部に気軽に本が読める場所をつくってほしい」についてお答えします。

西澤さんが読書が好きで、自分だけではなく、みんなが気軽に本を読めるアイデアを考えてくださっていることを大変うれしく思います。

図書館では、図書館から遠いところにお住まいの方のために、約3,000冊の本を積んで市内51か所を巡回する動く図書館たちばな号を運行しています。西澤さんがご提案くださったように、動く図書館たちばな号を多くの方に利用してもらえるような工夫はとても大切なことだと思います。

しかし、毎日の巡回の後には、司書と呼ばれる図書館の職員が、場所ごとにどんな本が喜ばれるかを考えながら、たちばな号に積む本の準備を行ったり、利用者が本を手に取りやすいように、本の並びをきれいに整えるなどしています。もし今よりも1日に巡回する

場所を増やしたり、運行時間を長くしたりすると、こうした準備が十分できなくなります。

また、図書館本館は、平日と比べて土日などの休日の方がより多くの方が来館されるため、平日より多くの職員を本館に配置する必要があります、これらのことから、夕方や休日にたちばな号を運行することは難しい状況です。

しかしながら、図書館のほかにも、市内の公民館などには地域文庫と呼ばれるものが12か所ございます。亀山小学校の近くでは、亀山出張所に子ども文庫があります。図書館からも地域文庫に本を貸し出すなどして、読書活動のお手伝いをしています。よかったら利用してみてください。

さらに、3年後の令和10年度には、南彦根駅の近くのプロシードアリーナHIKONEの隣に（仮称）図書館中部館ができる予定です。この図書館ができますと、今よりも市の中南部地域にお住まいの方たちがもっと利用しやすくなりますので、楽しみに待っていてください。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 西澤さん。

〔13番（西澤千悠さん）登壇〕

○13番（西澤千悠さん） 再質問します。

移動図書館たちばな号の準備が忙しいことは重々承知しておりますが、公民館などで借りられる小さな図書館みたいなのは、大人の本や、本当に幼稚園の子らが借りるような本が多くて、私ぐらいの年代では満足する人は少ないと思います。それについてはどう思いますか。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） たちばな号3,000冊のうちに、大人の方が読むような本、また、児童書と言われるような本も積んでいるところです。限られた場所の中で配置できる本の数も限られておりますので、たちばな号、または地域文庫のほかに、学校には学校図書館がございます。こちらの方にも毎年新たな本を購入してもらえるように予算もつけておりますので、たちばな号、地域文庫と併せて学校図書館も使っていただいて、読書活動を充実していただきたいと思います。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 西澤さん。

〔13番（西澤千悠さん）登壇〕

○13番（西澤千悠さん） ご回答ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 14番仲村春乃さん。仲村さん。

〔14番（仲村春乃さん）登壇〕

○14番（仲村春乃さん） 「通学路の安全強化について」

私は、3年生のときにバイクにひかれかけたことがありました。その場所は、歩道がないためグリーンベルトになっていました。縁石があつたらひかれかけることもなかったとは思っています。また、新海浜や新海町の友人にも通学路について意見を聴いてみまし

た。すると、「交通量が多い」や「スピードが速い」、「危険を感じる」という意見がありました。

そこで、通学路の安全強化を提案します。

例えば、安全対策には、横断歩道の設置、歩道橋の設置、縁石の整備などが考えられます。さらには、スクールガードさんがもっと増えると、より安全に登下校ができると思います。

このようなことが実現すると、彦根市のみんなが安全に楽しく登下校ができると思うのですが、いかがでしょうか。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 仲村春乃さんからの「通学路の安全強化について」、お答えします。

まずは、仲村さんが3年生のときにバイクにひかれそうになったとのこと、本当に怖い思いをされましたね。その経験を基にみんなの通学路の安全を考えてもらったことは、とても素晴らしいことだと思います。

経験されたような歩道がなくグリーンベルトになっている道路は、車やバイクが通行する部分と人が歩く部分が非常に近いため、危険を感じやすい場所です。特に、通学時間帯は、登下校する子どもたちが多く、また、車の通行量も多いため、安全対策がとても大切になります。

提案いただいたように、全ての通学路に縁石を設置できればよいのですが、道路の幅が狭いところでは、縁石を設置すると車が通れなくなるため、縁石に代わる対策として、グリーンベルトにより運転者に注意をしてもらえよう整備を行っているところでございます。

市では、仲村さんが毎日利用されている通学路をはじめ、市内の通学路について、毎年、学校や地域から出される危険箇所の声を基に、学校の先生、教育委員会、警察、そして道路を管理する市など関係するみんなと相談しながら、今ある道路の中で安全対策を進めています。なお、相談いただいた対策の中でも、歩道橋の設置はとても高額な費用が課題となっています。

さらに、通学路では、車のスピードを落とすことを意識してもらうことが大切となりますので、市や警察で運転する人の交通マナーが向上するように取り組みたいと思います。また、市内では、約800人のスクールガードさんが見守り活動に取り組んでいただいています。これもとても大切な取組で、市としても地域の皆さんと協力しながら見守りの輪を広げていきたいと考えています。

仲村さんのように、どうすればみんなが安全に登下校できるかを真剣に考え、提案していただいたことは、まちづくりにとってとても大切なことです。これからも、危ないと感じたことや、こうしたらもっとよくなるという思いをぜひ周りの大人に伝えてください。市としても、皆さんの声を大切にしながら、安全で安心して通える通学路づくりに努めて

まいりたいと思います。

以上です。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 仲村さん。

〔14番（仲村春乃さん）登壇〕

○14番（仲村春乃さん） 再質問します。

私の学校ではあまりスクールガードさんは見たことがありませんが、ほかの学校ではすごく多く動員されているのでしょうか。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） スクールガードさんの数ですけれども、令和7年度に彦根市内で約800人、この人数につきましては令和3年から約160人ぐらい減っています。年数ごとにスクールガードさんの協力いただいている数も減っているような状況になっております。しかしながら、特に稲枝の方の学校では、スクールガードさんの数は多いような状況になっておりますので、引き続いて、スクールガードさんも協力いただけるように、市としても広報に努めてまいりたいと思います。

以上です。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 仲村さん。

〔14番（仲村春乃さん）登壇〕

○14番（仲村春乃さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 15番山口響輝さん。山口さん。

〔15番（山口響輝さん）登壇〕

○15番（山口響輝さん） 「彦根市内の全小中学校の更衣室の設置について」

私は、彦根市内の全小・中学校に女子更衣室、男子更衣室を設置することを提案します。

僕の学校には、女子更衣室はありますが、男子更衣室がありません。そのため、体育の時間と水泳の時間に男子は教室で着替えないといけません。教室の廊下側の窓にはカーテンがついてなく、廊下側から見られてしまいます。また、ほかのクラスの子たちや着替えから帰ってきた女子が見てきて、恥ずかしい思いをさせていただきます。

一方で、女子は、教室に忘れ物を取りに行きにくく、着替えた後、寒い中、廊下で待たないといけません。

このように、男子更衣室がないことで、男子だけじゃなく女子も困っている現状があります。男子も女子も快適に学校生活を送るために、教室ではない場所に女子更衣室、男子更衣室をそれぞれ設置することを提案します。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 山口響輝さんからの「彦根市内の全小中学校の更衣室の設置について」にお答えします。

現在は、体育や水泳の授業で着替えをする場合、更衣室として教室やプール更衣室の使

用など、男女別々に着替えができるように、工夫して対応していただいていると思います。男子が教室で着替えることについて、男子、女子、それぞれの立場からの視点で考えていただきました。

今の学校の中で更衣室として使用する場合は、現在も工夫して使われていますが、時間割を考えながら一時的な余裕教室や図工室などのカーテンのある特別教室を使うことや、忘れ物があったときなどに困るということであれば、そのようなとき、どうすれば困らないで済むかについて、みんなで話し合っただけでルールを決めたり、学校の先生に相談したりしていくことも考えられるかだと思います。

皆さんがこのように日頃思っていることを提案していただくことは大切なことだと思いますので、今後ともそのような姿勢は大切にしていきたいと思います。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 山口さん。

〔15番（山口響輝さん）登壇〕

○15番（山口響輝さん） 再質問します。

今、少子高齢化で、クラスのところまで空き教室があるんですけど、そこにカーテンを取り付けたりして、そこを更衣室として使うことはできませんか。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 今言われたように、少子化で子どもさんの数も少なくなってきた、従来、勉強するために使っていた教室が空いている状況もあるかだと思います。そうした部屋の活用の方法については、各学校で、授業で使う以外の目的の部屋に使ったり、いろいろな目的に使われているかだと思います。そうした中で、そこを更衣室として使うこともできるかと思いますが、カーテンをつける、つけないの部分につきましては学校とも相談が必要になりますけれども、今、既にカーテンがある教室をなるべく使ってもらえるようにしていきたいなと考えているところです。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 山口さん。

〔15番（山口響輝さん）登壇〕

○15番（山口響輝さん） 2回のご答弁ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 16番江畑駿さん。江畑さん。

〔16番（江畑 駿さん）登壇〕

○16番（江畑 駿さん） 「小学校での社会体験の機会を増やす」

僕は、小学校での社会体験の機会を増やすことを提案します。

理由は、小学校では、年に1、2回の校外学習での見学や体験しかなくて、小学生が自分の夢について深く考えることができる機会が少ないと思ったからです。また、働く意義や楽しさに気づくことができるからです。

まずは、彦根にある工場や企業、お店に協力してもらって、見学や体験をするとよいと思います。彦根で体験することで、地元の仕事に興味を持ってもらえるのと、後継者が増

えて、彦根市の特色を未来に残すことができると思います。また、学校の近くで体験ができると、自分たちの住む地域のよいところが分かると思います。さらに、短い期間で幾つかの体験をすることで、より視野が広がり、具体的な夢を持つことができます。

だから、僕は、活気がある彦根で若者がどんどん活躍していけるように、小学校での社会体験の機会を増やすことを提案します。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 江畑駿さんからの「小学校での社会体験の機会を増やす」についてお答えします。

彦根市では、江畑さんのご発言のとおり、小学生の皆さんが体験を通して地域の仕事について学び、働くことの楽しさや大切さを知ることは大変有意義であり、地元への愛着が育ち、将来はここで働きたい、こんな仕事がしたいといった夢を持つきっかけにもなり、主体的に学びを広げていくことにもつながると考えています。江畑さんのように、社会体験を増やしてほしいという思いを持っていてくれることを大変にうれしく思います。

各小学校では、学校内での学習だけでなく、全ての子どもたちが、将来の社会や自らの生き方を考えるため、社会とつながる学習を大切にしています。例えば、様々な仕事をされている方から話を聞いたり、地域の方とともに自然体験や社会体験をしたりするなどの取組や、社会科や総合的な学習の時間など、様々に取り組んでいます。一方で、学校での全体の学習時間を考えますと、学校外での学びを限られた時間の中で、えりすぐって、計画的に実施することも大切になります。皆さんの興味や関心のある活動については、長期休業等を利用して、さらに皆さん自身が学びを進めてくれることを期待しています。

また、彦根市では、地域で学び、成長し合う仕組みづくりとして、ひこふぁみと呼んでいる取組があり、企業などへ地域みんなで子どもたちを育てていこうという働きかけもしています。この取組には、彦根のみんなでファミリーのように子育てをしようという意味が込められています。登録されている企業には、例えばお店を見学したり、お話を聞かせてもらったりするなど、学校の社会体験活動にもご協力をいただいています。

今後も、教育委員会では、地域の皆さんや学校と力を合わせて子どもたちが体験を通して学べる機会をさらに増やしていけるよう、しっかり支援していきたいと思っています。

○第2グループ議長（大橋達樹さん） 江畑さん。

〔16番（江畑 駿さん）登壇〕

○16番（江畑 駿さん） ご答弁ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大橋達樹さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（大橋茂雄さん） 休憩時間は10分程度といたします。

午前11時03分休憩

午前11時13分再開

○議会事務局長（大橋茂雄さん） 本日は、子ども議会にお越しいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方には、あらかじめお願い申し上げます。子ども議会の取材のために、議場内に報道機関等が入って撮影をされています。ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。なお、保護者の皆様、傍聴者の皆様におかれましては、本会議中の撮影は傍聴席からのみとさせていただきます。本会議終了後、撮影時間を設けておりますので、傍聴席以外からの議場内での撮影は本会議終了後をお願いいたします。

また、議場内では飲食禁止とさせていただきます。携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 議長を交代しました。城陽小学校、比喜多優奈です。よろしくお願いいたします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、17番黒木颯人さん、18番河端梨乃さん、19番飯干和さん、20番吉田琉空さん、21番カミムラパウロロベルトさん、22番高田柚菜さん、23番海外恵輔さん、24番大橋達樹さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

17番黒木颯人さん。黒木さん。

〔17番（黒木颯人さん）登壇〕

○17番（黒木颯人さん） 「稲枝北小学校の校門付近の改修について」

僕は、稲枝北小学校の校門付近の改修を提案します。

稲枝北小学校の校門付近は、土がぼこぼこしていたり、草が生えたりしています。そのため、雨や雪が降ったら転んでけがをしたり、靴がぬれたりして困っています。

実際に校門付近を通学路にしている22人にアンケートを取りました。アンケートの結果、こけたことがあるのは9人、約40%も転んでいることが分かりました。転んだ理由には、雨や雪が降って草がぬれて滑ること、凸凹の段差につまずくことが挙げられています。

この問題を解決するために、校門付近をコンクリートに改修することを提案します。彦根市の予算は495億4,000万円あると聞いています。改修にかかる費用はごくわずかです。けがをすることなく安全に学校生活を過ごすために、ぜひよろしくお願いいたします。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 黒木颯人さんからの「稲枝北小学校の校門付近の改修について」にお答えします。

学校生活での身近な問題に目を向けて、クラスでアンケートを実施するなど、みんなの意見をまとめ、解決しようとした姿勢はすばらしいと思います。

まず、市の予算は大きな金額ですが、学校のことだけではなく、福祉や道路、消防など、市民の皆さんの生活に欠かせない様々な事柄に必要な費用でつくられ、そのための費用は、市民や企業の皆さんから納めていただく税金などを基にしています。

しかしながら、皆さんから納めていただく税金などには限りがあるため、予算を使うと

きには、できるだけ効果的に使う工夫が必要です。

そこで、黒木さんから提案のあった校門付近の地面が凸凹していたり、草が生えて滑りやすくなったりしていることについては、現地も確認しましたが、その改修方法は、コンクリートで舗装する方法もありますが、コンクリートは、雨や雪のときにかえって滑りやすくなったりすることがあります。そのため、滑りにくく、水はけもよい砂利を敷くなどの方法で、来年3月末までには安全に通れるように改修を行いたいと考えています。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 黒木さん。

〔17番（黒木颯人さん）登壇〕

○17番（黒木颯人さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 18番河端梨乃さん。河端さん。

〔18番（河端梨乃さん）登壇〕

○18番（河端梨乃さん） 「若者の投票率の向上について」

ニュースなどで若い人が投票に行かないと聞いたことがあります、それではまちがよくなるチャンスがなくなってしまうと思いました。

そこで、選挙管理委員会に彦根市の投票率を聞きに行きました。10代から40代の投票率が特に低く、50代以上が高いことが分かりました。市は、投票率を上げるために、18歳の人にはがきを送ったり、投票した人に、ひこにゃんやわるにゃんこ將軍の投票済証明書を渡したりする取組をされています。しかし、まだまだ投票率に課題があり、さらなる取組が必要だと考えます。

そこで、選挙のことを子どものうちからもっと学べるようにしたり、子どもでも選挙に関わったりできるような「こども投票」や選挙体験イベントをつくってはどうか。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 選挙管理委員会委員長。

○選挙管理委員会委員長（野瀬 毅さん） それでは、私から、河端梨乃さんからの「若者の投票率の向上について」の質問にお答えをいたします。

最近、令和7年、今年7月に行われました国会議員の選挙である参議院議員通常選挙における彦根市の投票率を具体的にお話ししますと、全体の投票率が56.28%に対し、50代から70代では60%を超える投票率となりましたが、10代から40代は全体の投票率を下回っており、特に10代は42.94%、20代は45.84%となっていますので、河端さんのご指摘のとおり、彦根市においても若い世代の投票率が低い現状となっています。

こうした現状を踏まえて、彦根市の選挙管理委員会といたしましても、若い人の投票率の向上に向けた取組や、若い人の積極的な政治参加の重要性を伝えていくことが大変重要であると受け止めており、今回、河端さんからご提案いただいたような子どもの頃から選挙に関心を持っていただくこと取組は大変重要であると考えております。

現在、彦根市選挙管理委員会では、市内の小・中学校を対象に、選挙の出前講座の制度を設けています。この出前講座では、申込みのあった学校を訪問し、選挙制度の説明や、

実際の投票箱を使用して投票を行う体験をしていただくなど、選挙の大切さを感じてもらい取組を行っています。また、学校で生徒会の選挙などが行われる際に、実際の選挙で使用しております投票箱や記載台などを貸し出す取組も行っております。興味や関心がありましたら、ぜひ学校の先生にお尋ねしてみてください。

また、実際の選挙では、18歳未満の方でも、保護者の方と一緒に投票所に行っていたとき、投票を間近で見ってもらうこともできますので、実際に投票所にお越しいただけますと、選挙をより身近に感じていただくことができると思います。

今後につきましては、ご提案に近い取組であります選挙の出前講座などをより多く学校で実施していただけますように、周知を進めていくとともに、本年4月の市長選挙から取り組んでおります、ひこにゃんやわるにゃんこ將軍を使用した投票済証の配布など、若い方や親子連れの方が投票所にお越しいただけるきっかけとなるような取組も継続をしていきたいと考えております。

河端さんにおかれましては、若い世代が選挙に関心を持ち、積極的に投票することが、よりよいまちづくりにつながるというお考えを今後も大切にさせていただき、周りの方たちにも選挙の大切さを広めていただきますようお願いいたします。今後も、何か気がついたことや提案がありましたら、参考にさせていただきますので、またお聞かせください。

選挙の大切さを身近に気づいていただき、今回、ご質問をいただき、ありがとうございました。これからもしっかり勉強していただき、学びの機会を増やしていただきますようよろしくお願いいたします。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 河端さん。

〔18番（河端梨乃さん）登壇〕

○18番（河端梨乃さん） ご回答いただき、ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 19番飯干和さん。飯干さん。

〔19番（飯干 和さん）登壇〕

○19番（飯干 和さん） 「彦根市の熱中症対策について」

私は、彦根市の熱中症対策について提案します。

理由は、登下校時にとっても暑くて困っていたからです。私自身も毎日暑いと感じていたし、低学年の子は、重い荷物を持っている上に、あんなに暑い環境だなんて、すごくかわいそうだと思います。今のままだと、通学路で倒れてしまう子どもが出てくるかもしれません。なので、今のうちに熱中症対策をする必要があるのではないのでしょうか。

具体的には、一部に休憩場を造って屋根を設置したり、安全に登下校できるようにしてほしいです。

また、岐阜県美濃加茂市では、首元を冷やすアイスリングなどを下校時にも使えるよう、各クラスに冷凍庫を設置されました。彦根市ではそのような取組をされる予定はありますか。

昨年、山形県では、部活帰りの中学生が熱中症で亡くなってしまう事故がありました。彦根市でも、そのような事故が起きないうちに対策をお願いします。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 飯干和さんからの「彦根市の熱中症対策について」、お答えをします。

飯干さんのご発言のとおり、近年、最高気温35度以上の猛暑日が年々増加しています。安全に登下校できるよう、特に、体力的に熱中症となる危険性が高い低学年児童を、飯干さんたち上級生が見守っていてくれることに大変感謝しています。ありがとうございます。

ご提案の休憩場の設置については、暑さが夕方まで続く日も多く、下校時間帯は日陰であっても熱中症になる可能性があることから、下校の途中で休憩するよりも、少しでも早く帰宅する方がよいのではないかと考えています。各学校では、下校前に皆さんの様子を確認して、水分補給を促すなどの必要な支援をしています。しかし、万が一、下校中に体調を崩した場合には、通学路の各所にある子ども110番の家に助けを求められるようにしていますので、休憩場を設置することは今のところ考えていません。

次に、各教室に冷凍庫を設置することについては、費用面や学校での管理面での課題があることから、実現することは難しいと考えています。

既に、熱中症予防のために、できることに取り組んでいただいています。まずは、皆さんが十分な睡眠や朝御飯を取り、適度な運動をするなどの基本的な生活習慣をしっかりと身につけてほしいと考えています。その上で、登下校の際に、水筒を持参して水分補給ができるようにすることや、帽子の着用や日傘の使用などにより、引き続き熱中症対策をお願いしたいと考えています。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 飯干さん。

〔19番（飯干 和さん）登壇〕

○19番（飯干 和さん） 再質問します。

子ども110番の家以外に、下校中に何か熱中症対策をしていることはありますか。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 子ども110番の家以外にも、地域全体で皆さんの熱中症も含めた安全を見守っていただくように、地域の方に、皆さんが登下校中に困っていたら助けをお願いしますということを学校を通してお願いしているところです。これからも、皆さんの安全を守るために、学校はもちろんですが、地域の方々と協力して取組を進めていきたいと思っています。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 飯干さん。

〔19番（飯干 和さん）登壇〕

○19番（飯干 和さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 20番吉田琉空さん。吉田さん。

〔20番（吉田琉空さん）登壇〕

○20番（吉田琉空さん） 「子どもが悩みを気軽に相談できる環境づくりについて」

僕は、子どもが悩みなどを言え、気軽に相談できる環境づくりについて提案します。

僕は、3年生のときに悩みがあったけど、学校や親に相談できなかったことがありました。それは、恥ずかしかったし、親に迷惑がかかると思ったからです。なので、僕は、ボランティアの人などとメールや電話で気軽に相談できる仕組みがあれば、子どもの悩みが軽くなるのではと考えました。

彦根市には、いじめ・不登校相談ほっとラインなどの相談ができる場所があることを調べて知りましたが、それまで僕は知りませんでした。僕のようにまだ知らない人もいます。なので、みんなに知ってもらうために二つのことを提案します。

一つ目は、ポスターで電柱や掲示板に貼ることです。

二つ目は、タブレット端末にサイトやアプリをつくることを提案します。

このように、子どもが悩みを相談できる窓口をみんなに知らせるといいと思います。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 吉田琉空さんからの「子どもが悩みを気軽に相談できる環境づくりについて」、お答えします。

吉田さんから、3年生のときに悩みがあっても誰にも相談できなかったというお話を聞かせていただき、そのような思いをする子どもがいなくなるよう、気軽に相談できる環境づくりの大切さを改めて強く思いました。

学校には、先生方以外にも、学校を訪問して子どもたちの相談に応じるスクールカウンセラーや相談員がいます。また、彦根市には、いじめ・不登校相談ほっとライン、滋賀県や国には、こどものSOS相談窓口やこどもの人権110番など、電話やメール、SNSを通じて支援を行っている相談窓口もあります。しかし、吉田さんから相談できる場所があることを知らなかったという大切なご意見をいただき、相談窓口の情報提供をもっと効果的に行う必要があることを大変に強く感じたところです。

これまでも、学校内でポスターを掲示したり、2学期の始まりの時期には期間を決めてタブレット端末から相談窓口の情報が分かるようにしたりしてきましたが、吉田さんからポスターやタブレット端末の利用についてのご提案をいただき、これからさらに工夫を重ねていきたいと思っています。

まず、ポスターに関しては、子どもたちの目に留まりやすい場所、例えば昇降口や廊下、公民館の掲示板などに掲示することを検討しています。また、デザインや言葉遣いも工夫し、より親しみやすく分かりやすい表現で作成していきます。これによって、より多くの子どもたちに相談できる場所があることを知ってもらいたいと考えています。

次に、タブレット端末の利用については、いつでも相談窓口の情報が得られるよう、デスクトップにショートカットを作成するとともに、彦根市のホームページをリニューアルし、より子どもたちが使いやすく、必要な情報にアクセスできるよう改善を進めていきま

す。

彦根市としましては、吉田さんからの大切なご提案をしっかりと受け止め、子どもたちが安心して悩みを相談でき、困ったときには一人で悩まずに済む環境づくりをさらに進めていきたいと思っています。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 吉田さん。

〔20番（吉田琉空さん）登壇〕

○20番（吉田琉空さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 21番カミムラ パウロ ロベルトさん。カミムラさん。

〔21番（カミムラ パウロ ロベルトさん）登壇〕

○21番（カミムラ パウロ ロベルトさん） 「待機児童の増加に対して、彦根市がしている取組は」

僕は、待機児童の増加に対して彦根市がしている取組について質問します。

僕は、1学期、社会の勉強で待機児童について学びました。インターネットで調べてみると、全国での待機児童のランキングで、滋賀県が高く、待機児童が増加していることを知りました。滋賀県内では、令和6年4月1日現在、大津市では184人、彦根市では1人でした。比べると差がすごくあります。

僕は、待機児童を減らすためには、空き地を利用して、保育園、幼稚園を建て、保育士の給料を多くして保育士を集め、待機児童の子どもを通わせることができれば、待機児童を減らせることができると思います。

前は彦根市では待機児童が多かったけれども、どんな取組をして待機児童を減らしたのですか。また、彦根市の取組を待機児童の多い大津市に広めることを提案します。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） こども家庭部長。

○こども家庭部長（前川昌敏さん） カミムラ パウロ ロベルトさんからの質問、「待機児童の増加に対して、彦根市がしている取組は」についてお答えします。

彦根市の待機児童数は、令和2年度の56人をピークに毎年減らす努力をしまして結果、令和4年度に1人、そして今年度にはようやく待機児童をゼロにすることができました。待機児童を減らすことができた理由については、待機児童が多かった小学校区に新しく保育園やこども園を建てたり、今までからある保育園を増築し、大きくできたからだと考えています。一方で、待機児童の多い滋賀県の南部にある大津市や守山市についても、彦根市と同じように新しく保育園などを造って努力をされていますが、駅前に大きなタワーマンションが建ち、急激に子どもの数が増えているなど、彦根市とは少し違う状況もあって、待機児童が減らないのだろうと思っています。

次に、保育士さんたちのお給料について説明させていただきます。保育園では、必要なお金を、彦根市、それから国、滋賀県からお金をもらい、その中から保育士さんたちにお

給料を支払ったり、給食の食材を買ったり、子どもたちが楽しく過ごすための遊具や材料を買ったりしています。保育園で必要なお金は、保育園が建っている地域や保育園の大きさによって金額が違ってきますが、あまり保育士さんたちのお給料に差が出ないように決められています。

今回、カミムラさんの質問にもあった彦根市の取組を広めるという提案は、とてもいい提案だと思っています。彦根市だけが待機児童が減ってよかったということではなく、滋賀県内全ての市町で待機児童が減り、みんなが安心して子育てできるまちにしたいという思いをほかの市役所や町役場の職員さんにも伝え、みんなが集まる会議などで考えていきたいと思いますので、またいいアイデアを思いついたときには、学校の先生を通じて教えてください。よろしくお願いします。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） カミムラさん。

〔21番（カミムラ パウロ ロベルトさん）登壇〕

○21番（カミムラ パウロ ロベルトさん） ご答弁ありがとうございました。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 22番高田柚菜さん。高田さん。

〔22番（高田柚菜さん）登壇〕

○22番（高田柚菜さん） 「獣害対策について」

私の住むところやその周りでは、よく猿が出ます。実際に友達と公園で遊んでいるときに、山から下りてきた猿が入ってきて、とても怖い思いをしました。また、友達から聞いた話によると、車から降りて家に入るときに、猿が追いかけてきて必死に逃げたそうです。もしそこで逃げ切れていなかったら大けがをしていたかもしれません。

そこで提案です。彦根市の獣害対策を徹底してください。多賀町では、猿のリーダーにGPSをつけて動きを確認しているそうです。また、猿が下りてきやすい場所に電気柵などを設置して猿に恐怖心を与えているそうです。私は、それを知って、とてもいい対策だと思いました。彦根市でもそういった対策を考えてみてほしいです。

一方で、駆除をしたらいいと言う人もいますが、私はそれには反対です。人間も猿も心地よく生きられる彦根市にしたいです。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 産業部長。

○産業部長（稲野善行さん） 高田柚菜さんからの「獣害対策について」のご提案にお答えします。

まず、一つ目の猿のリーダーにGPSをつけて動きを確認するご提案については、彦根市でも今年度から、高田さんご提案のとおり、順番に佐和山学区の群れの猿にGPS発信機を取り付ける予定です。そして、その猿が現在どこにいるのかを把握し、猿が山から下りてくる前にロケット花火やパチンコ銃などで猿を脅かして山へ追い返す取組を行いたいと考えています。

二つ目の猿が山から下りてきやすい場所に電気柵を設置するご提案については、住宅地

に猿を近づけない対策として、とてもすばらしい提案だと思います。しかし、電気柵は、山の一部に設置しても、ほかの空いている場所から猿が入り込んでしまいます。効果を出すには山の周りを隙間なく囲む必要があり、そのための設置費用はとても高額です。国や県からの支援は期待できず、本市の予算も厳しいため、今のところ電気柵の設置は難しい状況です。

最後に、高田さんの人間も猿も気持ちよく生きられる彦根市にしたいという意見はとてもすてきだと思います。しかし、高田さんのお友達を追いかけた猿がいたように、猿が人の家に入って物を壊したり、食べ物を取ったり、人にけがをさせる場合には、やむを得ず駆除をしなければならないこともあります。

まずは、猿が私たちの暮らすところに入ってこないような方法を考えて、できるだけ命を大切にしたいと思いますので、猿を駆除しなくて済む取組と一緒に考えていきましょう。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 高田さん。

〔22番（高田柚菜さん）登壇〕

○22番（高田柚菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 23番海外恵輔さん。海外さん。

〔23番（海外恵輔さん）登壇〕

○23番（海外恵輔さん） 「琵琶湖のごみを減らすための取組について」

琵琶湖のごみを減らす取組について提案します。

琵琶湖の近くを歩いていると、ごみを見かけたり悪臭がしたりしていました。インターネットで調べてみると、プラスチックごみが多く、鳥などがごみを食べてしまうことで生態系への影響があることが分かりました。解決したい課題としては、ごみを減らして魚や鳥が誤食してしまわないようにするとともに、人への悪影響をなくしていきたいです。そのために私は以下のことを提案します。

一つ目は、ごみを減らすために、彦根市の護岸を中心にごみ拾い大会を実施することです。そこで参加してくれた人に飲物を渡したり、拾ったごみの量を量って、一番ごみを拾ってくれた人に景品を渡したりしたいと思います。競うことで、いっぱい拾う効果があります。

二つ目は、ごみを減らす呼びかけのポスターをスーパーなどに貼ることです。そのために、夏休みの図工の宿題で、小・中学生にポスターの作品募集を行います。みんなのごみ問題についての意識が高まると思います。

このように、琵琶湖のごみを減らすための活動をすることによって、魚や人に悪い影響を与えないだけでなく、今後のごみの量が減ることを期待できます。琵琶湖は滋賀県にとって大切なものです。この取組を通じて琵琶湖を守っていきたいです。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 市長。

○市長（田島一成さん） 海外恵輔さんからの「琵琶湖のごみを減らすための取組につ

いて」のご質問にお答えいたします。

琵琶湖は、ご指摘のとおり、滋賀県民にとってもかけがえのない存在であり、飲み水や生活用水として利用されるだけではなく、そこで多くの魚や鳥などの生き物が暮らす、とても豊かな自然環境を持っております。しかし、ご指摘いただいたとおり、湖岸にはプラスチックごみなどが落ちていることも多々あり、鳥や魚がそれを誤って食べてしまうことで生態系に悪い影響を及ぼす可能性があります。また、見た目や臭いで私たち人間も大変嫌な気持ちになることもあります。

そこで、彦根市では、地域や企業、会社の皆さんと協力をしながら、琵琶湖岸の清掃活動や啓発活動にこれまで取り組んできたところではありますが、開催されていることをご存じない市民の皆さんも多くおられ、今回、ご提案いただいたごみ拾い大会のように、楽しみながらごみを減らす工夫、子どもたちから大人まで幅広い世代の皆さんと一緒に行動することで、環境を守る気持ちを理解できる効果も期待できるので、とても素晴らしいアイデアだと考えます。

さらに、夏休みの宿題としてポスターを募集するといった取組も、多くの皆さんにごみを減らすことについて考えてもらえるきっかけになると思います。また、皆さんが自分の思いを作品に込めて、それが市内の様々な施設に掲示されれば、そこを訪れた方々も理解し、環境への意識を高めていただくことにもつながると思います。

ぜひ彦根市としても、今回、海外さんからご提案いただきましたご意見を参考にさせていただきながら、琵琶湖を今以上にきれいに守るための取組を考えていきたいと思っております。これからも皆さんと一緒に協力をして、美しい琵琶湖を守ってまいりましょう。

以上です。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 海外さん。

〔23番（海外恵輔さん）登壇〕

○23番（海外恵輔さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 24番大橋達樹さん。大橋さん。

〔24番（大橋達樹さん）登壇〕

○24番（大橋達樹さん） 「スクールバスを導入してほしい」

私は、遠くから通っている児童の登下校を路線バスにすることを提案します。

稲枝北小学校の薩摩町と柳川町から通っている人にアンケートを取った結果、バスで登校したい人が約62%と半数以上を占めていました。

私たちの登下校の道は、建物が少なく、強風や風雨が当たる場所が多いので、危険なものが飛んでくる可能性があります。雪の日は、薩摩、柳川から1時間以上もかけて登校している人もいます。小さな子だったら、さらに時間はかかります。

また、バス登校になると、不審者の危険性がなくなることや、交通事故の心配が少なくなること、暑い中、高齢のスクールガードの方々が往復して引率して下さったりしてい

ることから、地域の方や先生方の登下校の安全指導に関わる業務の軽減につながると思います。

低学年だけの登校のときは、特にけがをしたり体調が悪くなったりすれば、家も遠いし、学校も遠いので大変です。

そして、一番危険だと感じていることは、熱中症についてです。屋根が少ないので、暑いときに避難するところが少なく、実際に熱中症になりかけた人も何人かいます。

以上のことから、遠くから通っている薩摩と柳川の人たちが安心して学校に通えるように、スクールバスを導入することを提案します。児童の安全確保のため、また、地域の方々や先生方の安全指導軽減のためにも、ぜひ実現の一步を踏み出していきたいです。よろしくをお願いします。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） 大橋達樹さんからの「スクールバスを導入してほしい」についてお答えします。

毎日の登下校の中で気づいたことについて、アンケート結果を基に、遠くから学校に通っている友達がどうすればもっと安全に安心して登下校できるかと考え、ご提案いただきありがとうございます。その視点がとてもすばらしいと思います。

スクールバスについては、大橋さんが言われるとおり、学校の時間に合わせて運行する専用のバスであり、とても便利ですが、導入するためにはバスの運転手の確保、バスの維持管理に係る費用が新たにかかってまいります。

また、路線バスは、今のところ、学校の始まりや終わりの時間に合わせて家や学校の近くのバス停を走っていないため、利用することが難しいと考えています。

こうしたことから、スクールバスの導入は今のところ難しいと考えていますが、今後も、学校へスクールガードさんをはじめとする地域の方々にご協力いただきながら、見守り活動や通学路の安全対策をさらに強化するとともに、熱中症対策としましては、保護者の皆様と連携して、帽子の着用、日傘などのグッズを使用させていただくなど、皆さんが安心して登下校できるように努めていきたいと考えています。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 大橋さん。

〔24番（大橋達樹さん）登壇〕

○24番（大橋達樹さん） 再質問します。

バスを導入するためには、確かにお金はかかると思います。ですが、そのお金を出すことによって、倒れたり危険な目に遭って怖い思いをする児童が減ることにつながるので、児童の安全のために、お金はかかったとしてもバスは導入してほしいです。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 教育部長。

○教育部長（小島久喜さん） スクールバスの導入につきましては、今ほどお答えしたようなことから、今すぐの導入というのは難しいと考えています。しかしながら、今後、スクールバスを導入するための費用が確保できるような財政状況になったり、また、スク

ールバスの導入に当たっては、何キロ以上という一定の基準も国から示されていますので、将来的に学区の見直しなどがあった場合には検討していきたいと考えているところです。

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 大橋さん。

〔24番（大橋達樹さん）登壇〕

○24番（大橋達樹さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（比喜多優奈さん） 以上で全ての質問を終了します。

これで第16回彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午前11時54分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	江	畑	駿
第2グループ議長	大	橋	達 樹
第3グループ議長	比	喜	多 優 奈
議 員	山	田	結 華
議 員	服	部	匡 紀
議 員	川	瀬	東 吾
議 員	黒	木	颯 人
議 員	飯	干	和
議 員	吉	田	琉 空